

第 48 回全国高等学校柔道選手権大会北海道大会 実施要項

主催 北海道柔道連盟
共催 北海道高等学校体育連盟
後援 北海道教育委員会
主管 北海道高等学校体育連盟柔道専門部
北海道高等学校体育連盟札幌支部柔道専門部

1 日程 令和7年12月17日(水)

9:00	開場
9:15～ 9:45	男子・女子計量
10:00	顧問・監督・審判打合せ
10:10	開会式
10:30	女子個人試合
13:00	男子個人試合
16:50	表彰式

12月18日(木)

8:20	開場
9:10	顧問・監督・審判打合せ
9:20	女子団体試合・男子団体試合(3人制)
12:10	男子団体試合(5人制)
15:50	表彰式・閉会式

2 会場 北海道立総合体育センター メインアリーナ
札幌市豊平区豊平5条11丁目1番1号 Tel 011-820-1703

3 競技規則

(1) 国際柔道連盟試合審判規定ならびに北海道高体連柔道専門部申し合わせ事項による。

ア 団体試合

- ① 試合時間は3分とする。
- ② 「優勢勝ち」の判定基準は「有効」または「僅差」(指導差2)以上とする。
- ③ チームの内容が同等の場合は代表戦を行う。代表戦の方法は「4 競技方法」で定める。
- ④ 男子団体は5人制または3人制のどちらかに1チームが出場することができる。

イ 個人試合

- ① 試合時間は3分とする。
- ② 「優勢勝ち」の判定基準は、「有効」または「僅差」(指導差2)以上とする。
- ③ 試合終了時に技による評価が同等および指導差1以下の場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、必ず勝敗を決する。延長戦は、「有効」以上または「指導」の数に差がでた時点で勝敗を決する。また、両試合者が「指導」の累積による同時「反則負け」の場合は、スコアをリセットして延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。延長戦で「指導」の累積により同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。

4 競技方法

(1) 団体試合

ア 男子 5人制

- ① 4ブロックによるトーナメント戦を行い、ブロック1位校による決勝リーグで順位を決定する。
ただし、参加校数によっては3ブロックによるトーナメント戦を行う場合もある。
- ② 各チーム間の試合は点取り試合とする。
- ③ 試合は各チーム3名以上で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。
- ④ トーナメント戦の勝敗の決定は次による。
 - I 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - II Iで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - III IIで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - IV IIIで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - V IVで同等の場合は、代表戦を行う。
代表戦は代表選手を任意に選出して行う。代表戦の「優勢勝ち」の判定基準は「有効」または「僅差」（「指導」差2）以上とし、試合終了時に得点差がない場合、もしくは、「指導」差が1以下の場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行う。延長戦は、「有効」以上の得点があった時点、または、「指導」の数に差が出た時点で試合終了となる。
*代表戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、勝敗を決する。延長戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を時間無制限で行い、勝敗を決する。
- ⑤ 決勝リーグ戦の順位の決定は次による。
 - I リーグ戦で勝利数が多いチームの順とする。
 - II Iで同等の場合は、同率校との対戦で勝利したチームの順とする。
 - III IIで同等の場合は、代表者1名によるリーグ戦を行い、順位を決定する。
 - IV IIIで同等の場合は、「一本」「技あり」「有効」「指導」「GS」の順によるスコアで順位を決定する。
 - V IVで同等の場合は、代表者1名によるリーグ戦の再試合を行い、順位を決定する。
代表戦の方法についてはトーナメント戦の方法に準ずる。1度目の代表戦で順位が決定しない場合は再度リーグ戦を行う（同じ方法で繰り返す）
代表者の変更は認めない。

イ 男子 3人制

- ① トーナメント戦で行う。
- ② 各チーム間の試合は点取り試合とする。
- ③ 試合は各チーム2名以上で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。
- ④ トーナメント戦の勝敗の決定は次による。
 - I 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - II Iで同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - III IIで同等の場合は、「技あり」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - IV IIIで同等の場合は、「有効」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
 - V IIIで同等の場合は、代表戦を行う。
代表戦は引き分け対戦の中から抽選で選び、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。代表戦の優勢勝ちの判定基準は個人試合に準ずる。なお、引き分け対戦がない場合は、両者反則負けなどで勝敗がつかない対戦を代表戦とする。また、両チームが選手の負傷などで2名しかおらず、引き分け対戦がない場合などは、代表選手をすべての対戦の中から抽選で選出して、ゴールデンスコア方式の試合を時間無制限で行う。
※ 代表戦で「指導」の累積により同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットし再度ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。

ウ 女子

- ① トーナメント戦で行う。
- ② 各チーム間の試合は点取り試合とする。
- ③ 試合は各チーム2名以上で行い、試合毎のオーダー変更は行わない。
- ④ トーナメント戦の勝敗の決定は男子3人制に準ずる。「イ 男子3人制④」参照

(2) 個人試合（男子・女子）

- ア 体重別（4階級）及び無差別とする。
- イ 試合はトーナメント戦とする。

5 参加資格

- (1) 選手は学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。
- (2) 北海道高等学校体育連盟に加盟している生徒で、全道大会の参加資格を得た者。
- (3) 高体連主催大会参加者災害補償制度に加入している者、または加入意志のある者。
- (4) 令和7年度(一社)北海道柔道連盟を経て、(公財)全日本柔道連盟に登録を完了した者。
- (5) 平成19年4月2日以降に生まれた者（令和7年4月2日現在、18歳未満であり第1・2学年に在籍）同一学年の出場は1回限りとする。
- (6) チームの編成においては、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混合は認めない。
- (7) 転校後6ヶ月未満の者は出場することができない。（外国人留学生もこれに準ずる。）ただし、一家転住等の理由により、やむを得ない場合は、北海道高等学校体育連盟会長の許可があればこの限りではない。
- (8) 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長の承認を得ること。
- (9) 参加資格の特例
 - ア 上記(1)(2)に定める生徒以外で大会要項により大会参加資格を満たすと判断され、北海道高等学校体育連盟会長が推薦した生徒について、別途に定める規定に従い大会参加を認める。
 - イ 上記(5)については、学年の区分を設けない課程に在籍する生徒の全道大会への出場は、2回限りとする。
- (10) 外国人留学生については、卒業を目的として入学していること（短期留学は認めない）。
- (11) 脳震盪対応として、選手およびその指導者は下記事項を遵守すること。
 - ア 大会1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。
 - イ 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場ことは不可とする。（なお、至急、専門医（脳神経外科）の精査を受けること。）
 - ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診察を受け、許可を得ること。
 - エ 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- (12) 皮膚真菌症（トングランス感染症）については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。

[大会参加資格の別途に定める規定]

- (1) 学校教育法第72条、115条、124条及び134条の学校に在籍し、北海道高等学校体育連盟の大会に参加を認められた生徒であること。
- (2) 以下の条件を具備すること。
 - ア 大会参加資格を認める条件
 - ① 全国高等学校体育連盟の目的及び永年にわたる活動を理解し、それを尊重すること。
 - ② 参加を希望する専修学校及び各種学校にあっては、学齢、修業年限ともに高等学校と一致していること。また、連携校の生徒による混成は認めない。
 - ③ 各学校にあっては、部活動が教育の一環として、日常継続的に責任ある顧問教員の指導のもとに適切に行われており、活動時間等が高等学校に比べて著しく均衡を失っていない、運営が適切

であること。

イ 大会参加に際し守るべき条件

- ① 全国高等学校柔道選手権大会北海道大会実施要項を遵守し、大会申し合わせ事項等に従うとともに大会の円滑な運営に協力すること。
- ② 大会参加に際しては、責任ある教員が引率するとともに、万一の事故の発生に備えて傷害保険に加入しておくなど、万全の事故対策を講じておくこと。
- ③ 大会開催に要する経費については、応分の負担をすること。

6 引率・監督

- (1) 引率責任者は、校長の認める当該校の職員とする。監督は校長の認める当該校の職員または指導者とする。監督については、校長から委嘱された「部活動指導員」（学校教育法施行規則第78条の2に示された者）も可とする。 ※14. 諸連絡（5）参照のこと。
- (2) 監督の役割
ア 監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。
- (3) 監督の行為・言動
ア 試合が止まっている間（「待て」から「始め」）のみ、選手に対し指示を与えることができる。
イ 次の行為を禁止する。
 - ① 試合が続行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。
 - ② 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。
- (4) 罰則規定
ア 1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。
イ 2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。
※次の試合（対戦校）からは、監督席に座することはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中をとおして、監督席への着席を認めない。

7 参加制限

- (1) 男子団体5人制出場校は各支部3校とする。ただし、札幌支部は8校とする。
- (2) 男子団体3人制出場校は各支部3校とする。ただし、札幌支部は6校とする。
(5人制残枠を3人制への変更は可とする。また、全体の残枠を開催支部で補充することもできる)
- (3) 女子団体出場については自由参加とする。
- (4) 男子個人試合出場者は、各支部各階級4名、（無差別は12名）とする。
札幌支部は60kg級・66kg級・73kg級は各階級20名、81kg級は16名、無差別は24名とする。
- (5) 女子個人試合出場者は、自由参加とする。
- (6) 男子個人の体重区分は次の4階級及び無差別とする。
60kg級・66kg級・73kg級・81kg級・無差別
- (7) 女子個人の体重区分は次の4階級及び無差別とする。
48kg級・52kg級・57kg級・63kg級・無差別
- (8) 女子は以下の階級に登録できる。
ア 団体・先鋒（52kg以下に登録した場合）
個人は、48kg級・52kg級・無差別のいずれかに登録できる。
イ 団体・中堅（63kg以下に登録した場合）
個人は、すべての階級ならびに無差別のいずれかに登録できる。

8 チーム編成

- (1) 男子5人制は、監督1名・選手6名・マネージャー1名の8名とする。

- 3名もしくは4名で出場の場合は、後ろ詰めで配列すること。(先鋒・次鋒もしくは先鋒を空ける)
- (2) 男子3人制は、監督1名・選手3名・補欠1名・マネージャー1名の6名とする。
2名で出場の場合は、後ろ詰めで配列すること。(先鋒を空ける)
- (3) 女子は、監督1名・選手3名・補欠2名・マネージャー1名の7名とする。
先鋒52kg以下・中堅63kg以下・大将無差別。ただし、体重の軽い者は重い階級に出場でき、補欠は該当する階級に出場できる。また、試合当日両チームとも2名での対戦となった場合は、配列をそのままにして後に詰める(先鋒を空ける)。なお、2名同士の対戦後、勝ち上がった場合、次の試合の配列はエントリー通りとする。
- (4) 外国人留学生のチーム人員は、1名以内とする。

9 体重計量 12月17日(水) 9:15~9:45
男子…メインアリーナ 女子…メインアリーナ更衣室

10 表彰

- (1) 団体試合 ア 優勝・2位・3位(2校)に表彰状並びにトロフィーを贈る。
イ 優秀選手に表彰状を贈る。(選考方法は別に定める)
- (2) 個人試合 ア 優勝・2位・3位(2名)に表彰状並びにトロフィーを贈る。

11 全国大会出場校 [団体試合] 男子5人制は優勝校・2位校
女子は全道大会優勝校
[個人試合] 男女ともに優勝者
※男子3人制の全国大会はありません。

12 参加申込

- (1) 申込方法 北海道高体連柔道専門部HPより全道高校柔道選手権大会参加申込のページに入り、「柔道大会申込シート」をダウンロードし、大会申込書を作成する。次のア・イの要領で送付する。
ア 必要事項を入力し印刷後、職印を押印する。振込の完了を確認できるもの(コピー可)を同封し、下記(2)宛へ郵送にて提出する。
イ 上記アで作成した申込みデータをメールで下記(3)アドレスへ送信する。
メールの「件名」と「申込シート」は学校名で送付する。
- (2) 大会申込書郵送時に申込シートの団体試合・個人試合の名票を印刷し裁断して同封すること。
団体試合出場者分は、A4(横向き)を1/2に裁断すること。
個人試合出場者分は、A4(横向き)を1/3に裁断すること。
- (3) 申込先 〒063-0833 札幌市西区発寒13条11丁目3番1号 北海道札幌琴似工業高等学校
全国高等学校柔道選手権大会北海道大会事務局 堀川徳彦 宛
TEL 011-661-3251 FAX 011-661-3252
メール送付先 sapporohsjudo@yahoo.co.jp
- (4) 申込期日 令和7年11月19日(水) 必着(期日厳守)
- (5) 参加料 [下記振込先へ11月18日(火)までに振り込むこと]
男子団体 5人制 15,000円 3人制 10,000円
女子団体 10,000円
男女個人試合 1名 2,000円
振込先 北海道銀行 北二十四条支店 普通 1478935
北海道高等学校体育連盟柔道専門部 部長 川村広幸(かわむら ひろゆき)
※ 振込依頼人名は北海道・高等学校を除いた学校名のみを記載して手続きすること
例) ○ サッポロコトニ × ホッカイドウサッポロコトニコウギョウコウトウガッコウ
[振込の完了を確認できるものを参加申込書に同封すること(コピー可)]

- 13 組合せ抽選 令和7年11月28日（金）北海道札幌琴似工業高等学校 会議室
北海道高体連柔道専門委員による責任抽選とする

14 諸連絡

（1）男子団体5人制および3人制のオーダー提出について

- ア 用紙は本部進行で受領し、記載後「本部進行係」に提出する。
- イ 3人制の1回戦のオーダー提出は9時30分までとする。
5人制の1回戦のオーダー提出は11時50分までとする。
- ウ 2回戦以降は本部進行係の指示に従うこと。
- エ 1度提出したオーダーの変更は認めない。

（2）団体試合の選手の変更について

- ア 参加申込み後に変更が生じた場合は、所定の用紙により12月17日（水）9時30分までに、大会本部へ届けること。
- イ 参加申込み後の団体試合の選手変更は、1名を限度とする。
但し、感染症その他天災による場合は適用しない。
- ウ 女子団体において、登録した選手を抹消する場合は、すでに申込みをした補欠をその位置に補充し、新たに登録する選手は補欠に入れる。
- エ 女子団体において、補欠に52kg以下の選手を登録していない状態で先鋒(52kg以下)を抹消する場合や補欠に63kg以下の選手を登録していない状態で中堅(63kg以下)を抹消する場合は、新たに登録する選手を直接先鋒あるいは中堅に入れることができる。
- オ 男子個人試合で負傷し団体試合(5人制・3人制)の選手を兼ねていた場合の選手変更は下記のとおりとする。
 - ① 変更できるのは大会医務の診断により、競技委員長・審判長が団体試合に出場できないと判断された選手のみとする。負傷後、直ちに大会医務の診断を受けること。
 - ② 変更する場合は、変更後の選手を個人試合の表彰式までに大会本部へ申し出ること。
 - ③ 変更する選手(変更後の選手)については、電話などで校長に出場の承諾を得た後、選手変更届に必要事項を記入し、後日「校長印」を押印し大会事務局へ提出すること。

※ 女子については、補欠が2名いることから選手変更を認めない。

- （3）表彰式には、団体・個人ともベスト4までのチーム・選手が参加すること。
- （4）競技中の傷害・疾病などの応急処置は主催者が行うが、その後の責任は負わない。
- （5）選手は必ず当該校引率責任者に引率され、引率責任者は選手のすべての行動に対して責任を負うものとする。
- （6）紅白紐は出場校で準備する。
- （7）宿泊は各学校で手配する。
- （8）その他不測の場合は、全専門委員で協議し専門部長が取り扱いについて判断する。
- （9）試合場(畳)を使用しての練習は次の通りとする。

12月17日（水）

9：10～ 9：55 女子個人試合出場者

12：10～12：55 男子個人試合出場者（女子の終了時間により変更あり）

12月18日（木）

8：25～ 9：05 女子団体試合・男子団体試合（3人制）出場者

11：25～12：05 男子団体試合（5人制）出場者

（女子・男子3人制の終了時間により変更あり）